

雲興山
龍谷寺

心月

だより

第2号

発行者：雲興山 龍谷寺 住職 成田隆真

新年を迎えて

龍谷寺住職 成田隆真



龍谷寺鐘楼門

今日が佳き日となるように
明日も佳き日になるように
前を向いて一歩一歩歩んでいこう
新しい年がはじまる。

龍谷寺、日進桜楓霊苑、そして日東保育園にご縁を頂いた皆様、新年おめでとうございます。新年を向かえ、日常の忙しさをしばし離れ、家族が集い、楽しいひと時をお過ごしのことと幸いです。

私共もおかげさまでみな元気に新年を迎えることができました。

新しい年も、社会に開かれたお寺となるよう、努力をまいります。

新年が皆様方にとってよき年となるよう、お祈り申し上げます。





龍谷寺本尊
秋迦無尼佛

曹洞宗 龍谷寺のはなし

本堂再建への熱い思い

先日、過去帳を読んでいますと、龍谷寺三十六世成田芳髓大和尚が今の本堂を発願し、長い時間をかけて建設し、落慶に至った経緯が記されていました。

本堂再建を発願したのは、龍谷寺三十五世近藤騫道大和尚で、昭和十二年のことと記してありました。当時の龍谷寺の本堂を知る人は、今は少なくなりましたが、かなり老朽化していたと推察されます。

近藤騫道大和尚は、温厚で正直な方で日々檀務に精進し、つましい暮らしをしながら、本堂再建の思いは熱くお持ちでした。ただ、そのころから第二次世界大戦が始まり、藤島地区や龍谷寺で修行していた僧侶も戦地に赴き、戦死された方もたくさんいらつしたため、断念されました。

その思いを引き継いだのは、三十六世成田芳髓大和尚でした。

成田芳髓大和尚は、昭和八年に中国上海に渡り、曹洞宗海外布教師として、戦火のなか、

十三年間布教活動を行いました。その間、曹洞宗上海別院として、「長徳院」を建立したものの、終戦後の昭和二十一年、すべてを投げ打って帰国しました。

帰国後、曹洞宗宗務庁に務め、その後愛知学院の当時の学長小出有三先生のもと、学監として愛知学院の運営に携わりました。

本堂再建まで30年

そして昭和二十七年一月十五日に、龍谷寺本堂再建の発願をされたのです。しかし、戦後間もないことや、経済的余裕もなく、なかなか進展しないまま時が過ぎました。そして昭和三十四年伊勢湾台風が来襲しました。

保育園園舎が倒壊し、本堂は台風にも吹き抜かれ、天蓋の瓔珞（ようらく・飾り物）は一枚もなくなり、庫裡も半壊と大きな被害を受けました。もちろん龍谷寺だけでなく、日進町も被害は甚大で本堂再建も一時あきらめざるをえませんでした。

ようやく昭和三十六年三月、本堂の本体

工事に取り組み、五月にはコンクリートを打ち上げたものの、わずか二十六日目に集中豪雨に見舞われました。内部工事等は一時頓挫しましたが、成田芳髓大和尚は個人で借金をし、佛天の加護を念じて再び着工。昭和四十二年一月より内部造作工事に着工し、本堂、開山堂、一階結婚式場客殿を完工しました。

本堂の様式は、耐震、耐火、耐風の鉄筋コンクリート造りとし、屋根瓦の葺き替えが必要ない陸屋根とし、内部は東洋本来の荘重さを心がけて建設されました。

昭和四十二年十一月二十三日、勅賜大鑑道元禅師管長高階瓏仙猊下を拝請して入佛落慶法要が営まれました。実に近藤騫道大和尚が発願してから三十年の歳月が流れていました。

法要の度に檀信徒の皆様にお入りいただく本堂は、先々代、先代の強い思いで造り上げられています。年の初めにあたり、このことを思い出し、感謝の気持ちと共に今後とも報恩の心で精進していきたいと存じます。



龍谷寺の本堂



- ・龍谷寺で出合う言葉
- ・龍谷寺永代供養墓「縁(えにし)」のご案内

この言葉は、鐘楼門入口左右に掲げである「聯(れん)」に書かれている言葉です。

平成五年、藤枝町の萩野昭夫氏が供養のために奉納されたものです。

寺は葬儀、法事などの仏事を執り行うだけでなく、今を生きる人の心の拠り所として、寺が機能することを表したものです。

どなたでも寺の境内に入り、自然の中に身を置いた時、本来の自分あるべき姿に気づき、生きる力と真の姿を授かることができます。

寺とは本来、今を生きる人々へ常に目にみえない贈り物ができよう、寺内の環境を整えておかなければなりません。

人生も宇宙も一瞬も止めることなく、極めて速く過ぎ去っていきま

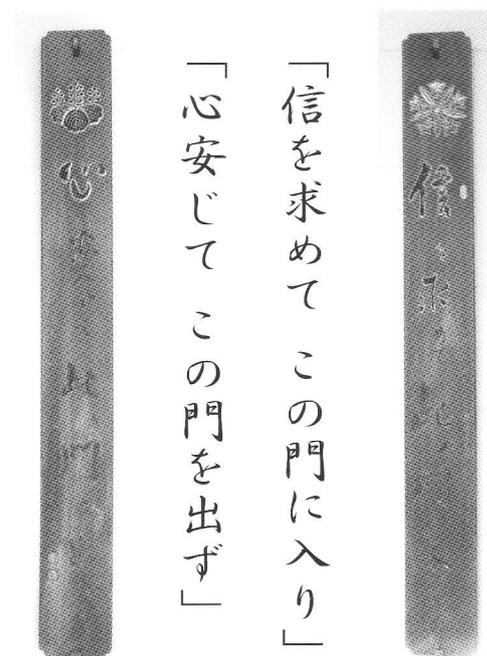
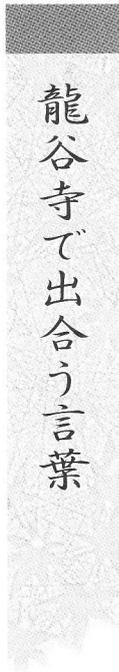
す。だから一刻も無駄にすることなく、生きることが大切です。

寺に来る人すべてに山号額と「聯(れん)」の言葉をお迎えいたします。

来寺された時には、鐘楼門の山号額と「聯」の言葉をかみしめてご覧頂きたいと思えます。



鐘楼門の山号額



鐘楼門の聯(左)

鐘楼門の聯(右)

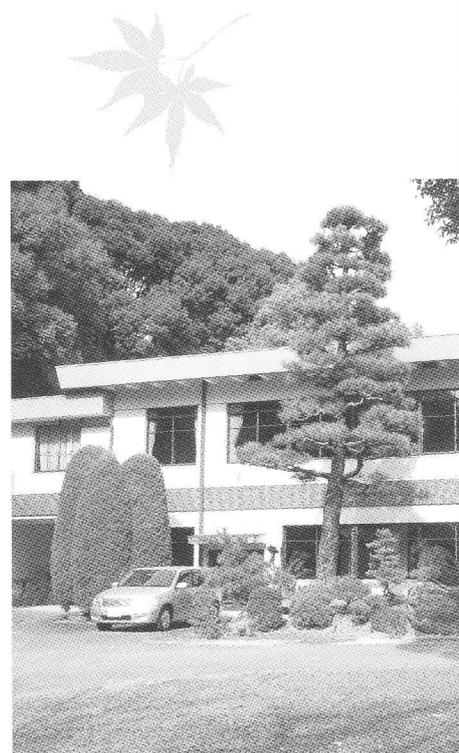
龍谷寺永代供養墓「縁(えにし)」のご案内

このほど日進桜楓霊苑第3ブロック内に龍谷寺永代供養墓「縁」を建立しました。



龍谷寺永代供養墓「縁」は、継承者がいない方でも、安心して納骨いただけます。龍谷寺では、三十三回忌まで責任を持って供養をいたします。

春、秋、お盆などの法要にはご自由に参加することができます。生前のお申し込みもお受けします。納骨は35万円からご相談に応じます。永代供養料のみで、永代使用料、管理料は不要です。詳しいことは、直接日進桜楓霊苑へお問い合わせください。



◆お問い合わせ **日進桜楓霊苑** にっしんおうふうれいえん
☎ 0120-5454-31 ☎ 0561-72-5454



新春 大般若祈禱会のご案内

今年も一年の無病息災を祈る大般若祈禱会を左記のように厳修します。今年は法要終了後「お琴のコンサート」があります。また、恒例の無病息災を願って「大根炊き」「甘酒」を振る舞います。

【日時】平成二十五年一月十四日(祝・月)午前十時

第15回「芳桜茶会」のお知らせ

龍谷寺境内で桜の花が舞うところです。一服のお茶を気軽にお楽しみください。

【日時】平成二十五年 四月十三日(土)

午前十時から午後三時

【お茶券】前売り券は二月上旬から準備。

一席500円、2席800円。

当日は一席券のみ販売します。

【同時開催】写経奉納会、梅花流詠讃歌奉詠、池坊生け花展示、芳桜会ピアノ教室発表、芳桜書道会展示

芳桜子ども日本舞踊教室発表会

子どもたちが成長したため、次のように開催します。

【日時】平成二十五年 五月三日(祝・金)午後一時から

【会場】天白文化小劇場

平成二十五年度

「梅花流全国奉詠大会」開催

【期日】平成二十五年

五月二十八日(火)から三十日(木)

【会場】宮城県総合運動場グラウンディ21

龍谷寺では日本文化を継承していくとさまざまな文化活動を行っています。皆様のご参加をお待ちしています。

◆芳桜書道会

毎週土曜日

午前10時から正午

午後2時から4時

本堂下客殿にて

月謝大人3千円、

小人2,500円

【指導】安藤霜秋先生

◆写経会

毎月第三金曜日

午後1時から2時

午後2時から4時

本堂下客殿にて

志納料千円

◆梅花流詠歌を歌おう

毎月1回

午後1時から3時

新客殿にて

【指導】富尾知恵先生

◆子ども日本舞踊教室

月1回

日東保育園にて

会費1回千円

◆芳桜茶道会

毎週土曜日

午後1時から5時

心月庵茶室にて

※詳しくは龍谷寺までお問い合わせください。

平成二十五年 龍谷寺 年間行事のごあんない

一月 一日(火) 元旦祈禱

二日(水) 年始受付、平成25年法事受付

三日(木)

十四日(祝・月) 成人の日 午前10時から大般若祈禱会、お琴コンサートその他

二月 一日(金)から

十五日(金)まで 涅槃図展覧

十一日(祝・月) 開山忌

十九日(水)

涅槃会(ねはんえ・おしゃか様が亡くなった日)

三月 二十日(祝・水) 春分の日 午前10時から春彼岸会法要

四月 十三日(土) 第15回芳桜茶会 午前10時から午後3時

二十一日(日) 藤島弘法

七月 七日(土) 日東夏祭り

八月 十二日(月)

盆棚経

十三日(火) 盆大施餓鬼会

十四日(水)

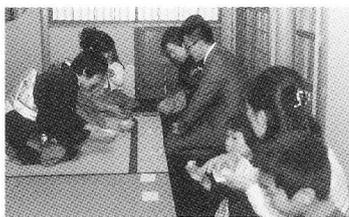
九月 二十三日(祝・月) 秋分の日 秋彼岸会

十月 二十六日(土) 日東バザー

十一月 二十三日(祝・土) 水子供養会

十二月 八日(日) 成道会(お釈迦様が悟りを開いた日)

三十一日(火) 除夜の鐘打鐘 午前0時開始



芳桜茶会



発行 雲興山龍谷寺
住所 〒470-0102
愛知県日進市藤島町寺下甲29
TEL 0561(72)0012
FAX 0561(72)0232
発行者 成田隆真